

がん社会 を診る

中川 恵一

がん患者の半数近くが代替療法を利用していません。しかし、代替療法はエビデンス(科学的な証拠)はありませんし、ビタミンEやベータカロテンなどは逆に、がんを増やしてしまうこともあります。代替療法を優先して、標準治療を拒んだり遅らせたりすれば、がんの進行、転移を招きます。乳がんを例にとると、ステージ1では5年生存率は100%ですが、遠隔転移のあるステージ4では35%程度に下がります。

がん治療の3本柱は手術、放射線治療、薬物療法です。治療可能ながんに対して代替療法を選んだ患者は、通常の治療を受けた患者に比べて死亡リスクが非常に高くなるという研究結果が8月、米国立がん研究所の専門誌に発表されました。

米エール大学の研究チームは2004～13年にかけて米

代替療法、高まる死亡リスク

国でがんと診断され、代替療法を選んで標準治療を受けなかった280人と、一般的な治療を受けた560人の生存率を比べました。

がん全体では、代替療法群は標準治療群に対して死亡リスクが2.5倍に上りました。特に乳がんでは5.68倍になりました。大腸がんでは4.57倍、肺がんでも2.17倍の差がありました。一方、前立腺がんではリスクが上がる傾向はみられませんでした。

米アップルの創業者で、56歳の若さで膵臓(すいぞう)がんのため亡くなったスティーブ・ジョブズ氏も、食事療法などの代替療法を優先して、手術が9カ月も遅れたといわれています。今回の研究でも、代替療法を選んだ患者は高収入、高学歴の人が多い傾向がありました。これは、日本での調査結果とも一致しています。病院や医師に対する不信感が影響している可能性もあるでしょう。

健康食品やサプリメントなどの効果はまず期待できませんし、マイナスも少なくありませんから気をつけることが大切です。そもそも、世界中の最先端の研究室や巨大製薬会社が新薬を求めてしのぎを削っていますが、有効な新薬をなかなか開発できずにいます。それなのに街中の健康食品会社が販売する「食品」が有効であるはずがないと思います。高額な健康食品より、おいしい食事にお金をかけた方がずっと得といえるでしょう。(東京大学病院准教授)



イラスト・中村 久美